

第69回全国高等学校PTA連合会大会 京都大会

Kyoから！未来を拓く ～受け継ぎ、創る新たなストーリー～

第4分科会

会場：みやこめっせ 3階

講師：原 清治（佛教大学副学長）

テーマ 高校生の人間関係について考える。高校生の本音を聞いてみませんか？

趣旨 現代の高校生は、親や教師だけでなく友達にさえ本音を言わないと言われて
います。講師の原清治氏は、毎年、定期的に多くの高校で生徒と対話をするアクテ
ィブな講演会を行い、ネット社会を生きる現代の高校生を「定点観測」されていま
す。また、豊富な調査事例に基づき、ネットいじめを初めとする学校が抱える諸問
題にも造詣が深い。そんな原先生に、さまざまなデータから見えてくる「現代の高
校生の人間関係」についての基調講演。後半は前年まで高校生であった若者5人を
パネリストに招き、「卒業したからこそ言える」「親にこんなことをしてほしかった」
「先生にこんなことをしてほしかった」といった本音を聞きます。現役の高校生の
保護者が、現代の高校生の本音を知ることを通して、家庭での子どもとの関わりを
考えます。



埼玉高P連

今回、基調講演 パネルディスカッション形式の分科会に参加させて頂きました。

1部の原先生の講演会で、現代の高校生は「マジメ」「やさしい」「繊細」である。家庭・学校・友達・Offとキャラを変え、関係自由（薄く広く）になっている。それはマスクを着用する生徒が増えていることでも表れている。高校生のマスク着用は花粉症などとは違い、マスクを着用することにより、一種の自己防衛をしているのだという。顔を覆うことにより話しかけないで！そっとしておいて！の意味も含んでいる様です。

例えば少人数グループがあり、価値観が合わなければあえて交わることはしない。意見を言っても同意してもらえなければ心が傷ついてしまうことを考え、壁を作り自己防衛をしてしまっている。分からなくもないと思いました。

2部では、5名の現役大学生パネリストと現役大学生が司会を務め、高校生の時の感情や思いを語ってくれました。特に受験時のことが多かったです。もっと「勉強しなさい」と親には言うて欲しかったし、進路を一緒に考えて欲しかった。その他の事でも、親だけではなく友達や先生にも打ち明けられずにもがいている時期だった。子供は親が思っている以上に深く考えていると感じました。

最後に、子供が何か悩んでいるのか？と思った時には、親が前のめりで「なにかあったの？」「どうしたの？」と畳み掛ける様に聞くのではなく、自分の布団を持ち、部屋まで行ってみてください。絶対的に断られるのですぐに戻りましょう！もし、「ねえ」と声を掛けてきたら、精一杯聞いてあげてください！これが「援助要請」子供が言うタイミングなのだそうです。私も前のめり全開なので、これを機に待つ事もしていきたいと思いました。

報告者： 堤 和子